



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

河川環境の美化を目指して

アドプト・プログラム 吉野川

アドプト・プログラム



アドプト・プログラム、聞き慣れない言葉ではないでしょうか。アドプトとは英語で「〇〇を養子にする」という意味です。市民と行政が協働して、河川や道路、公園などの一部区域を養子に見立てて縁組し、美化清掃を行い、行政が支援するアメリカ発祥のボランティア活動です。河川や道路、公園などの管理責任者は国や地方公共団体等であり、管理責任者毎にプログラムが導入されています。市民はその一定区間を預かりうけ、清掃活動などを実施します。

日本では1998年、徳島県の山あいの小さな町、神山町で初めて導入されました。以後、国内で400以上の自治体で導入され、500以上のプログラムが稼働しています。

吉野川交流推進会議



アドプト・プログラム吉野川は、流域に暮らす人たちが自分たちの手でかけがえのない吉野川を守ろうというボランティア活動です。母体である吉野川交流推進会議（1998年発足）が1999年に活動を開始しました。吉野川の土手や河川敷を子どもに見立て、その一定区間と流域の企業や住民グループが養子縁組し、みんなで吉野川を自分の子どものように可愛がろうという制度です。現在138の団体・企業が参加しています。

吉野川交流推進会議は、吉野川に関連した学習活動も行っており、今年は「まるごと吉野川魅力再発見講座」の一環として、旧吉野川河口堰管理所をはじめ、徳島県吉野川北岸工業用水道の浄水場や大塚食品(株)徳島工場の施設見学会を行いました。このほか、小学生とその保護

者を対象にした「交流体験 in よしのがわ」などの幅広い活動を展開しています。

水資源機構の取り組み



旧吉野川河口堰管理所では、管理業務の一環として「美しい水環境の保全」を目指し、アドプト・プログラムに参加して河川の清掃活動を実施しています。吉野川交流推進会議と2002年に養子縁組の合意書を取り交わし、活動範囲は今切川河口堰いまぎれがわの両岸上流1000mの区間です。

今年度の取り組みは、年間3回以上の清掃活動を目指しました。清掃活動は通常、水曜日の終業時から始めます。職員はゴミばさみとゴミ袋を持ち、今切川の両岸を可燃物と不燃物に分別しながら収集し、軽トラに積み込み管理所に集積します。5月、7月日、9月の3日間に延べ38人が参加しました。今後も地道な活動を継続して、河川環境の保全に取り組んでいきます。

